

対談日：2021年11月5日(金)

2021年12月28日

宇部マテリアルズ株式会社
マグネシア関連事業部 営業企画部
総務・人事部 総務グループ

「バクテリアフロックが発生した時に抜群に効くのになんで皆、知らんのやろう？」

公益社団法人山口県栽培漁業公社

内海生産部 部長 谷村 利克 さん / 専門研究員(魚貝類グループサブリーダー) 松本 眞明 さん

×

宇部マテリアルズ株式会社
マグネシア関連事業部 営業企画部 三浦 友規子 / 小田 康太
総務・人事部 総務グループ 川野 征人 / 百合野 あすか

当社製品をより多くの人に知っていただくために何が出来るだろう…と考えていた時、社内報の対談記事が思い浮かんだ。「対談形式なら、製品だけではなくお客様の魅力も伝えられる！」そのような思いから、今回の対談に臨んだ。初回は、地元山口県から。

当社では、マグネシアクリンカー製造で得た知見を生かし、様々な環境製品を製造販売している。1993年に販売を開始した環境改善剤「クリアウォーター®」はその代表製品の一つ。持続可能な養殖には欠かせない“漁場環境の維持”に最適な製品だ。SDGsの声が高まる中、海水由来のマグネシウム成分で製造された本製品に、より注目が集まっている。

今回訪問した場所は、本製品を20年以上の永きにわたりご愛顧いただいている公益社団法人山口県栽培漁業公社 内海栽培漁業センター様。取り組み内容や使用感などを聞いた。



対談の様子

(写真中央：谷村さん、写真左：松本さん)



本取材のため用意していただいた水槽

—— まずは、御社の事業内容を教えてくださいませんか。

谷村さん 公益社団法人山口県栽培漁業公社は、山口県における栽培漁業推進の中核機関として、県および 8 地域の栽培漁業推進協議会と連携を取りながら栽培漁業に関する諸事業を実施しています。また、山口県との指定管理協定に基づいて、放流用や養殖用のトラフグ・ヒラメ・アユ・クルマエビ・ガザミ・モクズガニ・アカガイなどの種苗（魚の赤ちゃん）の生産や配布をはじめ、栽培漁業に係る技術の開発、指導研修や普及啓発等を行っています。

—— 玄関にカニがたくさん並んでいましたね。

谷村さん 見学に来た小学生がとても喜んでくれます。ちょうど小学 5 年生で栽培漁業について学習しますし、今年度は 4,000 人の子供たちが社会見学に来てくれました。施設見学や講義を通じて栽培漁業の大切さを伝えています。みんな興味深そうに学んでくれましたよ。

—— 松本さんはどのようなお仕事をされているのですか。

松本さん 現場で健全な魚を生産し、元気な魚を放流するというのが私の仕事です。その中でクリアウォーターは、健全な種苗を生産する一助になっています。

—— ここで育てたクルマエビの種苗は山口県秋穂地区の養殖業者さんに出荷されるのですか？

谷村さん そうです。山口県漁協さんや県内外の養殖業者さんにも、放流用・養殖用として出荷しています。2020 年度は 13 mm サイズで放流用・養殖用を合わせて 577 万尾、20mm サイズで 85 万尾を出荷しています。クルマエビ以外にも、先程話のあったヒラメ、アユ、ガザミなどを山口県漁協さん等に出荷しています。

—— 私がこの前、秋穂で食べたクルマエビはここで生まれたということですね。そう考えると松本さんとの距離が一気に縮まった気がします（笑）

松本さん 私の担当はアユなので山口県内のアユだったら私が育てた子かもしれませんね。

—— 食べてもいいのかなという気になりました。

松本さん いえいえ、逆に食べてくれた方がありがたいです。食べてもらってなんぼなんです。



種苗生産水槽

—— 内海栽培漁業センターでは、何名で対応されているのでしょうか。24 時間体制ですか？

谷村さん 自分を含めて7名と、パートさんが5名ほどいます。

松本さん 24時間体制ではなく、基本的に勤務時間は8時半から17時15分までです。

谷村さん 魚は日の出から日の入りくらいまでの時間、餌を食べます。車エビは夜にも餌を食べるので、昔は夜に出てきて微粒子配合飼料をあげていました。ふ化から20日くらいすると粒径が大きい配合飼料が食べられるようになるので、自動給餌器が使えるようになります。そうすると夜間出勤がなくなりますね。今は人がいない時に停電や飼育水温の異常昇温等があれば、警備会社から連絡が入る仕組みになっています。

—— ワムシ(餌)も作っていると書かれてあるのですが、理由は餌からくる病気を防ぐためでしょうか。

松本さん 魚やカニの最初の餌はワムシとなるので、安定的に餌を与えられるよう培養しています。

谷村さん ワムシは240億個近く培養していますが、ピーク時はそれ以上に必要になる時もあります。このため、安定的に作らないといけないので自分のところできちんと管理して培養しています。

—— ワムシの培養は難しいのでしょうか。

谷村さん それはもう大変です。ただ、そうはいっても昔と違って今は、濃縮淡水クロレラを使うことで安定的に培養できるようになりましたので、多少は楽になりましたね。

—— 餌はワムシ以外にもあるのでしょうか。

松本さん 種苗の餌は、最初のうちはワムシです。少しサイズが大きくなったらブラインシュリンプ、そして大きくなったら、配合飼料を与えます。

—— この配合飼料の時にバクテリアフロックが発生しやすいと聞きます。

松本さん 配合飼料の餌付けの段階で出やすくなります。

谷村さん 餌付けの段階(練習の段階)では配合飼料の粒径が小さく無駄になる餌が多いです。その残った飼料が原因となってバクテリアフロックが発生します。

—— バクテリアフロックとは何ですか？

谷村さん ボイラーの配管などにくっつき長く糸を引くようなネバネバしたものです。

松本さん それが魚のエラにくっつくと呼呼吸困難になって酸欠で死んでしまう。ワムシの話に戻りますが、ワムシは動物プランクトンなので泳いでいるからそれを見て食べるのですが、配合飼料は動かないので、魚からしたら「なんなんだろうこれ？」って最初はなかなか餌として認識してくれずに食べてくれません。ただ、慣れてくると口に入って「美味しいんじゃない、これ♪」という感じになっているのではない



クリアウォーター散布の様子

かなと思っています。残餌によって水質が悪化したときに活躍してくれるのがクリアウォーターです。

—— 撒くタイミングはバクテリアフロックが発生したらですか？

松本さん 出そうだったら撒く、水質が悪化したら撒いています。私が担当するアユは、海が時化たら水槽の水が濁りますのでその時に使うという感じです。主に水質が悪化した時に使っています。

—— 即効性があるというお話ですがクリアウォーターを撒いてどのくらいで効くのでしょうか。

松本さん バクテリアフロックの場合、経験的に「このくらい入れたら治まるかな」という量を入れたら翌日には大体治まっています。

—— 汚れが多い時期は何月頃ですか。

松本さん アユの時期で言うと、配合が増えるのが11月中旬以降くらいです。あとはだいたい冬場の西の風でこの辺の海が時化てくると、濁った水が入ってくるのでその時です。



クリアウォーターをネットに入れて溶かしながら

—— クリアウォーターを使うきっかけについて教えてください。

松本さん 私は以前、ヒラメの生産をやっていたんですが、仕事を引き継ぐときに、前任の人からバクテリアフロックが発生した時にクリアウォーターを使っていると教わりました。ヒラメ以外の色々な魚にも使えるので、今では幅広く使用しています。ただ思うのは、私が、種苗生産業者が集まる会議に行った時の話なんですが、皆さんクリアウォーターのことを知らないんですよ。「これ撒いたらバクテリアフロックがすぐ消えるのに何で皆、使わんのかなあ？こんなにいい商品なのに！」と思っています。

—— クリアウォーターと同じ性能を持つ他社の製品があるからでしょうか。

松本さん 水をきれいにする製品は他社にもありますが、クリアウォーターはすごい使い勝手が良くて、そこまで価格が高いわけでもないのでも私的にはいいかなと思っています。何でもっと宣伝しないのかなってずっと思っていました。

—— クリアウォーターと他社製品はどのように使い分けているのですか？

松本さん クリアウォーターは水質を変える、良くする。他社製品は汚れを吸着させて底に沈めるといった感じです。

—— クリアウォーターをネットに入れて水で溶かす方法は、ここ独自の工夫ですか？

松本さん ネットに入れて海水を注水口のところに吊るすようにするとクリアウォーターがよく溶けて、さらに即効性が良くなるんですよ。そのまま撒くときもありますが、

すぐ効かせたいときは注水口に吊るすという使い分けです。

—— 翌日にはバクテリアフロックが取れているという話を聞くと、クリアウォーターは多くの種苗センターや養殖業者さんに展開できる可能性を秘めていますね。

松本さん 私からしたら何故、皆使用しないのだろうと不思議で仕方ありません。ただ、注文した時にすぐ来ないというのがちょっと残念なところです。クリアウォーターは余分に在庫を持っていたとしてもすぐに腐るようなものではないので、ある程度ストックしていただいて、注文が入ったら即出荷ができる状態にしていきたいと思います。私たちの事業は水質が悪くなったらすぐ対応しないといけないものです。なかなか来ないとなると魚が一気に死んでしまう。その辺は薬と一緒に早く来るようにしてもらえると、お客様も喜ぶんじゃないかなと思います。

—— 貴重なご意見ありがとうございます。お客様や販売店との情報交換をもっと密にとってご期待に沿えるよう精進いたします。今後ともご愛顧の程、宜しく願いいたします。



公益社団法人山口県栽培漁業公社
内海生産部 部長
谷村 利克 さん



公益社団法人山口県栽培漁業公社
専門研究員（魚貝類グループサブリーダー）
松本 眞明 さん

お問い合わせ先

宇部マテリアルズ株式会社 マグネシア関連事業部 営業企画部

〒755-8510 山口県宇部市大字小串 1985 番地

TEL : 0836-31-6085 / FAX : 0836-31-0275

HP : <https://www.ubematerials.co.jp/>

担当 : 岡田、三浦、田中、小田